



特別
ル4
4127





川渡

出て 水の上
 梓川と
 川と
 落合
 は
 大のと
 舟の
 細
 向
 川



門 凡 4127
 卷

寺 善 井 水
 光 善 井 水
 郷 郡 内

信
 中
 渡
 之
 嶋
 圖



舟 渡
 高 川
 飛 舟
 の



上別神社
佛閣

○（右より）

赤城之新社

甘樂郡赤城山

にあり社殿五十石

神宮内祭神

穀石門雄の天神

元恭天皇之朝

出現

妙哉山権現

白雲石石塔

寺守石院と云

光仁帝宝苑

年中の羊剣

榛名山

社願寺石列馬

般若院祭神

いまご考つて

新田大心神

新田三つ子

無乃其を祀る

○新田真真

乃子之貞貞小園

君德者光世來

肉承出の志世母公

多年心願の今

取信別者先寺に

歩鳥石獨の心願

年不似合意を心

孝心感概ふ心僕

先年心隠山素福

心道海心荒僧記

心為重山百為心



善光寺

行ぢり河峯真
尚國にけつて深の
願家と合戦し
鎌倉を攻め残
詮を破るまで
及て後の諸湯

おること年々つら
平年中の氏と
むす冊小戦ひ
短く鎌倉入り
其氏と就破り
又再奉を謀る
然る小延文二年
矢口乃渡りて
家人竹沢右衛門
が小殺し一そ其
宗が仍白神
不祀らる

海軍進出の神

舟首の神

海軍の神

舟首の神

舟首の神

舟首の神

舟首の神

舟首の神

舟首の神

舟首の神

長樂寺

世良田にあり寺
領三百石

○開山榮光のちめ
宗子に令り後小
建仁寺榮光の
小住がひ禪宗の
要旨と受室派
元来九月廿一日
成内小減と河小
寺因明らなること
炬燵乃ぬしと云

白岩寺

本寺十一面観
音坂東順礼十
二番の札所
水沢寺

高橋よりみま
修香保乃たふ
あり予子親香
是も坂東札
の札所なり
清水寺
白岩寺有観音

おろし上尾着楠江宿

宿葉より繁谷迄

里何れ方東南中ふ

吹上り建場みま

之田平町今村道

然谷蓮生心路

深谷傍糸巻巻上

支國坊空寺老

神奈川新所

倉賀野焼も考藩

當國名所

いかつち山

手林藤池

小南宮

松乃枝

龍虎の松

黒髪山

佐中江名所

万葉集

うい玉の黒髪山

と船とく本

佐野の舟橋

近江の舟橋

何来の男

女通

海

板

彼男

中

満

古歌

小白

宿 越後 津 大 伊

香 保 南 津 川 御 道

有 自 後 板 集 事

松 井 田 坂 井 崎

林 藤 野 権 燈 の 社

依 上 橋 橋 社 燈

舟 津 来 芝 屋 高 橋

追 手 舟 橋 津 間

山 森 津 井 崎

古 歌 小 白

新撰集小

五

在後乃さの身じ
まをの 新撰集小

婦くつらんも

俣香保乃沼

拾遺集小

いふ乃やいふ其の

いふ乃やいふ其の

を今記すあふん

岩垣乃沼

河集

真山乃岩がた

喜まきこんあふ

よをわき

刀根川

水よま東河らふ

大河わら水

新撰集小



車乃の東海道

曾道た方山諸

出山乃名者老老其

外山園村遠田車海

野と打る下田の町

東の垣本屋舎屋代海

よるく姨捨山長樂寺

冠山杯音乃酒徳家

船運を後丹波海

竹田甲越成場為

管の袖をよれぬ
藤川の原をよれぬ

ともいさうらうらう

新田山

更木集

若中六妹やどめ

んおのこ山石指の

枕をよかたはと

物同山

修香保のり

竿吹峠

上信乃國隈

日本書紀の事と

弟橘姫と云尊

東征の河をよめ

海津小深湯を

老十たちをよめ

王子乃命はつら

小入風やむま

確日乃坂をよ

姫乃情をよ

東南をよ

婿者耶と云

ゆふ故小山東の

川よ糸織る花を断

杖と歩んて心南を寝

泊りて又殊に思

地合を思ふ能く都先

葉を食ふ可有はま

光寺より来由の

てりし十一年の如

未だ徳百海流の

故の徳を推古の

十一年葉の伊奈部

國を吾姑乃と

いふとぞ

上別古卷

目辨織物

佐野白亭

多系粉盒山石

信別名所

更科山

更科郡小何

子載集

何月と

いふれいあけ

らんうじふれ

姨捨山日

厚代と倉倉

枕摩門

古今集

我ん

文科や姨捨

下月と

小田井

廣野

いふれ

麻績里字

寺其石

元年

和建

田音

宅天

靈佛

聖德太子

復音

卷の

善

七

花老

茶中おろぐ
海乃秋をほて茶
生次常もまき海

尺才はいつ一河
千所はとあは
有湖山

續古今集
行安の衣子きく
時百の有水のさ
かふるむくも
枕摩門

ちくは川春の水の
まはにけり清ま
日れ屋乃志き
相原 月月
西不牧あう約希
月乃争れ乃約い
さむらば布心と

水とあま
名寄集
信法はやまの

埃暮抄 少史夜

多々堂塔 狂歌

高は類海国 友

君場伯人 岸の赤酒

仲頭信念 金叢

檀主 妙子 経綸也

早流 舟車 白閑廊

有 藤泊 湯金車

元海 石村 石念 彌如

潮浦 治老 智徳 身

予れよそめり

浦見の山

身縁を人の来り

志すとも心うら

くはよのちを

相初門

志ふ百抄

志ふれりお初門の

ちつふこそすせ

結ぶの糸はちを

風城の原

初集

風城の原と遠小

刃の雨にやい林の

のふそあけりり



浅間山嶽

尚玉乃長小あり

頂上毎々煙出る

甲斐守徳源公

権左衛門尉

孝行の僕身後徳

参詣志願の荒野

年礼舟を打つては

車道と南陽のた

方戸徳山道徳

杖と毛山彦宗奉

顔実持翁者公云

戸隠明神の羊力雄

伊世物語

信法よりあまの
けしむる煙を道

今ふかむかめん

川中流

甲信合戦の地

な養乃心

夫本集

若夜羽の羽

若夜羽の羽

若夜羽の羽

若夜羽の羽

拾遺集

埋れ本の中むむと

いふれいふれは橋

いふれいふれは橋

會地の関

名寄

信法流やをわん

あまのつらさ

あまのつらさ

奈良良弁

此谷乃雪

此谷乃雪

伊世物語

信法よりあまの

けしむる煙を道

今ふかむかめん

川中流

甲信合戦の地

な養乃心

夫本集

若夜羽の羽

若夜羽の羽

若夜羽の羽

若夜羽の羽

茲訪乃湖也

上法訪免ぐり三皇

毎年小春後後

凍海を寒く神瓶

ちりちり氷をいりて

後人馬も氷上を

往來まると平陸の

地のごらま言後

まゝ瓶切て後氷

解る人たを(

瓶より氷をいりて

ありといふ

則當是地有神

秘之必在

越也

十返舎五著

青洲之書



肥前長崎往來

目黒池上系詣文章

七不越後往來

奥羽名所往來

越中立山 加賀自山 北國往來

金花山 塩竈 詣文章

熊野 那智 玉津寫文章

讚州金毘羅往來

小本 懷宝 初心塵劫記

戸隠善光寺往來

浪花名所文章

秋葉鳳來寺詣

文政五壬午年三月吉日

本棧木町壹丁目

東都

地本一式 義太夫問屋



西宮新六藏板

